

## 第4回一関市水道事業経営審議会 会議録

1. 会議名 第4回一関市水道事業経営審議会

2. 開催日時 平成27年10月1日(火) 午後2時から4時まで

3. 開催場所 一関保健センター会議室2

4. 出席者

(1)一関市水道事業経営審議会委員 12名

鈴木東委員、二階堂満委員、石川トシエ委員、及川豊委員、金野健男委員、  
昆野洋子委員、齋藤祥三委員、鈴木美感子委員、千葉とき子委員、  
三浦富久子委員、海野正之委員、江口扶委員

※欠席委員 4名

阿部弘子委員、金野幸造委員、阿部節子委員、千葉淳委員

(2)市出席者

菅野佳弘上下水道部長、金田賢上下水道部次長兼水道部次長、千葉隆水道部次長、  
那須野長己浄配水課長、佐藤隆博下水道課長、玉澤俊一花泉支所建設水道課長、  
千葉幸司大東支所建設水道課長、千葉彰千厩支所建設水道課長、  
榊原勇東山建設水道課長、北條敏方室根支所次長兼建設水道課長、  
齋藤祐二川崎支所建設水道課長、小野寺教勉藤沢支所建設水道課長、  
熊谷善孝業務課長補佐兼経理係長、須藤清明業務課長補佐兼料金係長、  
蕨武時光簡易水道課工務係長、岩渕光浩浄配水係長、大山健治水質検査係長、  
小野寺勝也主査、上原依子主任主事、金野亨主任主事

5. 審議事項

(1) 経営の効率化

(2) 水道事業の広域化

(3) 水道未普及解消事業を進める上での課題

6. 公開、非公開の別 公開

7. 傍聴者の数 なし

8. 所管部署 水道部業務課

## 9. 会議の内容

### ○ 会長あいさつ

水道事業は、人口減少や水道施設の老朽化などにより経営の見通しが厳しいが、サービスの水準を維持しながら、市民の皆さんが快適に生活できるような水道事業の経営を目指したい。本日は、具体的な経営の効率化の内容になってくるが、皆さんで自由闊達なご意見をいただきたい。

### ○ 審議

#### (1) 経営の効率化

事務局から資料に沿って説明を行い、質疑・意見を求めた。

#### 【質疑・意見等】

##### ① 審議会委員質疑

これまでの経営の効率化などの取り組みで、職員が減少しているようだが、このために、臨時職員などはどのくらい雇用しているのか。

##### ・事務局

経営の効率化という意味で雇用している職員は、窓口サービススタッフの2名のみ。効率化効果額と減少人件費からこの2名の費用などを差し引いたものが、資料中の影響額効果額となっている。

##### ② 審議会委員質疑

マッピングシステムは、現在も整備中とのことだが、これが整う段階では、効果額が見込めるものか。見込めるとすればどの程度か。

##### ・事務局

マッピングシステムは、管路情報及びお客様情報の一元管理を目的とするものであり、その効果は、事故・災害時における経験に頼らない情報の把握やお客様サービスの向上に寄与する部分大きい。このほか、老朽管の更新計画の策定や管路維持管理業務の効率化に資する部分もあるが、その部分の効果額は算出していない。

##### ③ 審議会委員質疑

1(1)④(ウ)に「民間事業者の事業遂行能力」とあるが、民間委託の推進に向けて民間業者と意見交換等を行っているか。委託項目に応じて5年先10年先を見据えて、民間業者と事前に話し合っておかなければならないと思う。また、業者の育成も必要だと思う。

##### ・事務局

民間委託については、委託する項目ごとに様々な業者があるが、それぞれの業種ごとに委託するか、包括的に委託をするかの検討も必要。現在は、浄水場の監視業務を委託しているが、その委託を運転業務まで広げて委託をしていきたいと考えている。運転管理の委託となると電気や機械の分野にも精通した業者でなければならぬため、県内で実績のある業者と意見交換をしている。

さらに、管路維持管理委託や料金徴収業務も検討中であるが、管路については、地元業者の団体に業務をお願いするかたちになると思うが、地元業者団体が管路の委託を単独で受託するか、あるいは包括的な委託業務の中の一部として地元業者団体が機能するのかは、今後検討を要する。

④ 審議会委員意見

行政が経費を節減するとき、それは専ら職員数を減らすことが多い。デスクワークの部分はそれでも良いが、技術を伴う部分については、なじまないと思う。担当職員が1人しかいない支所もあるというのは好ましくないと思う。

⑤ 審議会委員意見

民間委託を一気に進めていいのかという思いがある。ライフラインの中で官が行うとされているのは水道だけである。一番大切なライフラインだからこそ官が行っていると思うので、官が自ら行う部分と民間に任せる部分のメリハリをつけて検討すべき。

⑥ 審議会委員意見

今後の取り組みの中で、「水道担当部署の集約」とあるが、これは最優先で取り組むべきものだと思う。

⑦ 審議会委員意見

経済産業省がIT技術を導入して水道の維持管理を行う仕組みを整えるという新聞記事を見た。コストと効果の面もあるだろうが、このような技術の導入も視野に経営の効率化を検討すべき。

(2) 水道事業の広域化

事務局から資料に沿って説明を行い、質疑・意見を求めた。

【質疑・意見等】

⑧ 審議会委員意見

既に広域化している先進事例を参考にして、様々な課題を克服していくべき。

⑨ 審議会委員質問

岩手中部水道企業団では、広域化したことにより水道料金が下がったと聞いているがその仕組みは。

・事務局

岩手中部水道企業団については、紫波町の水不足が広域化の契機になったと聞いている。

岩手中部水道企業団の構成事業体は、用水供給事業から水を買っていた経過があり、用水供給事業を含め統合することにより中間経費を省くことができたため、料金へのプラスの影響があったと聞いている。

⑩ 審議会委員質問

一関市の場合は市域が広く施設が分散しているため、広域化したとしてもメリットを生み出すことができるかは疑問があるがその見解は。

・事務局

管理部門は集約できるため、その部分では効果があると思う。一方、施設の部分では市域の広さや地形等を考慮すると、効果は薄いと考えている。仮に1か所に余裕がある水源があれば、施設を集約できるためメリットがあるが、近隣の市町を見渡しても、そのようなメリットを享受できる市町はないと考えている。

⑪ 審議会委員意見

広域化することにより、中山間地域の意見（未普及解消等）が事業に反映されなくなるのは心配だ。

・事務局

中山間地域の意見を軽視するという事ではないが、広域化して大きな枠組みで水道事業を経営するとき、どうしてもコスト優先の考え方になりがちであり、そのような可能性が排除できないという意味である。

(3) 水道未普及解消事業を進める上での課題

事務局から資料に沿って説明を行い、質疑・意見を求めた。

【質疑・意見等】

⑫ 審議会委員質問

平成17年の市町村合併時の合併後に取り組むべき事業の項目として、室根地域に水道を普及するという項目があったと記憶しているが、その内容は。

・事務局

そのような項目があり計画もあったが、水源がないため認可に至っていなかった。合併後において水源調査を行い、安定的な水源の目処がたったところだが、その段階から今度は財源の問題が出てきて現在に至っている。

⑬ 審議会委員質問

未普及地域を全て整備したらいくらぐらいの料金値上げになるのか。

・事務局

第3回審議会でお示しした内容になるが、未普及地域全てではなく千厩、室根、大東の一部、東山の一部を実施した場合で、市からの補助金等がない場合の試算では、50年間で12.5%の資金が不足する。整備初年度に料金値上げすれば、12.5%の料金値上げになるし、仮に整備から25年後に料金を値上げすれば、およそ倍の25%程度の料金値上げが必要になる。なお、この料金値上げの割合は、施設の更新需要により5年に1回程度10%とか15%の料金値上げをするもの他にという意味である。

⑭ 審議会委員質問

未普及地域に大きな配水池のみを整備し、既存の浄水場から給水車等で水を運ぶという方法はできないものか。そうすれば、ランニングコストはかかってもイニシャルコストが抑えられると思うが。

・事務局

厚生労働省の水道ビジョンが示す多様な手法による水供給には、そのような

方法も含まれている。このほか、各家庭にタンクを設けて定期的に水を配達するというような方法も水道ビジョンに示されている。ただし、安定的に水を運搬・配達するシステムが構築できるかが課題となる。

⑮ 審議会委員質問

未普及地域に限らず、今後仮にどの程度人口が増加すれば、安定的な水道事業経営ができるかとう試算はあるか。

・事務局

人口の増加を前提とした財政見通しは作成していない。

⑯ 審議会委員質問

例えば、室根の未普及地域に気仙沼市から水を供給してもらうということとはできないものか。

・事務局

気仙沼の水源は室根から気仙沼に流れる大川であるが、余剰水量を持っているわけではないので、気仙沼市からの給水は難しい。

・事務局

本日の第4回審議会を含め、これまでは資料をもとに水道事業の現状と課題などについて理解を深めていただいたと思うので、次回はそれぞれの項目について、審議会としての方向性を決めていただきたい。

午後4時閉会